

物性研だより

第25卷
第4号

1985年11月

目 次

○軌道放射物性部門に着任して	柿崎明人	1
○施設利用者からみた物性研	小松原武美	3
○物性研を離れて思う事	佐藤正俊	6
物性研究所談話会		8
物性研ニュース		11
○東京大学物性研究所 客員部門教授・助教授の公募		11
○東京大学物性研究所 助手の公募		12
○人事異動		13
○各委員会委員名簿		14
○昭和60年度 後期 短期研究会一覧		17
○昭和60年度 後期 共同研究一覧		17
○昭和60年度 後期 外来研究員一覧		18
○テクニカルレポート新刊リスト		41
○昭和61年度 前期 共同利用の公募について		44
編集後記		

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

軌道放射物性部門に着任して

柿 崎 明 人

私は今年4月から軌道放射物性部門において研究に従事させていただくことになりました。よろしくおねがいいたします。

ご存知のように、軌道放射物性部門は軌道放射物性研究施設（SOR施設）と協力して田無の原子核研究所内にある物性研シンクロトロン放射光源（SOR-RING）の維持と、シンクロトロン放射を使った物性研究をする他に、新しいシンクロトロン放射光源の開発とそれを使った実験技術の確立を推進している部門です。

1940年代に発見されたシンクロトロン放射を物性研究のための光源として利用する試みは、1960年代になって世界各地の電子シンクロトロンを使って本格的に行われるようになり、日本では東大原子核研究所の電子シンクロトロンの完成と同時に、それをシンクロトロン放射光源として利用することが考えられ、60年代の早い時期から電子シンクロトロンのパラサイターという不十分な状況にもかかわらず、軟X線、真空紫外光を使った物質の光吸収、発光、光電子放出、さらにはホログラフィーなど、数多くの実験が行われてきました。そして、より強力で安定な光源をという要求から、電子ストーレジリング（SOR-RING）の建設が始まり、物性研 SOR-RING に初めて電子が蓄積されたのが1974年末のことです。SOR-RINGは物性実験のための専用光源として世界に先んじて建設された施設で、紫外から30Åの軟X線領域までの光が利用でき、真空紫外領域の光物性とその応用に新しい局面を開いてきました。

その後、日本でも分子研 UV-SOR、電総研 TELAS、さらに高エネルギー研 Photon-Factory が完成して、これらの施設で利用できるシンクロトロン放射は、数オングストロームのX線から遠赤外までの広い範囲に及びます。この10年間、シンクロトロン放射光源の増加と相まってそれを利用する研究者層は大きく成長し、研究対象となる物質も原子、分子から生体物質まで多岐にわたっています。物性物理の分野でも、光電子分光、光吸収、反射スペクトルなどを測定することによって、様々な物質の電子状態を探ることがより一般的になり、今やシンクロトロン放射は扱いづらい特別な光源ではなく、物性研究のための一つの有効な道具となっています。

一方、世界の先端では、従来行われていた測定をより高分解能で行って、これまで知ることのできなかった電子状態の詳細を見ようとする様々な実験の他に、光電子のスピン状態も解析して放出光電子のすべての情報を得て物性を調べようというような新しい研究も行われており、そのためには必要な、従来以上に強い光を得るための光源、光学素子の開発も進んでおります。

物性研 SOR-RING は、世界のシンクロトロン放射施設の老舗とも言えるところです。私が初めてシンクロトロン放射に接したのは、1976年に電子シンクロトロンのユーザーとして実験に参加したときで、そのころ SOR-RING は完成後間もなく、世界の先端を走っている自信と熱気がコンクリートのシールドを通してプレハブ小屋に伝わって来たのを覚えております。しかし、現在の SOR-RING は、より明るく、より単色性のいい光を求めてその後に作られた他の施設に較べると、実験エリアはかわいそうなほど狭く、長年のスタッフの努力にもかかわらず、完成後10年を経た電子ストーレジリングは老朽化し、分光器をはじめとする物性実験装置は時代の先端を行く研究に耐えられないものになりつつあります。この状況から抜け出るために SOR 施設と本部門では、高エネルギー研究所と協同で新型光源計画を推進しております。新しい光源は10数個の挿入型光源を持つ電子ストーレジリングで、SOR-RING よりも格段に明るい真空紫外光が得られると予想され、これによってスピン解析光電子分光実験や、従来は困難だったスペクトルのごく小さい構造の解析などが可能になると期待されます。

今回、こういう新しい計画を持った部門で研究し、その計画の一端を担うチャンスを与えていただいたことは、私にとって極めてラッキーなことです。共同利用のユーザーからインハウススタッフの一員となって半年余り、まだ若干とまどいもありますが、これを機会に、液体、マイクロクラスターなど、これまでにシンクロトロン放射を利用した研究の少ない分野にもチャレンジしていきたいと考えております。新しい実験にはそれ相応の困難があり、新光源計画の遂行も容易ではないでしょうし、不安もありますが、最善をつくすつもりでおります。どうかよろしくご指導下さいますようおねがいいたします。

施設利用者からみた物性研

小松原 武 美（筑波大物質工）

物性研は、他の研究機関や大学の研究室単位では到底購入することができない高性能な測定装置や大型研究施設を設置し、これを用いた物性研究を行い、関連分野でピークをなす研究成果を挙げることを目的とすると同時に、研究環境に恵まれない全国の研究者がその優秀な研究施設を自由に利用できる共同利用研究所とする、との二面をもった研究所として発足されたと聞いている。前者は最近大型プロジェクト研究も可能な大部門制に変身され、物性研の研究者の夢を膨らませ、その発展的成果が期待されている。後者は多忙な中を貴重な時間を割いて関係所員に外来者の面倒をみていただくサービス業務提供を強要することになる場合が多い。

私は物性研のサービス業務として公募している共同利用研究事業の一環である施設利用に応募し、昭和40年代から約十数年間に度々採択していただき、その恩恵に浴することができました。それは東海村の中性子回折研究施設の利用に始まり、主に10Tと15Tの超伝導電磁石を用いた測定施設（現在の共通測定室磁気測定）の利用であり、最近では超低温物性部門の永野研究室で希釈冷凍機を用いた超低温（～10mK）での磁気抵抗効果の研究がありました。施設利用のお陰で、予期した以上の成果を挙げることができ、嬉しく思うと同時に大変感謝しております。

「物性研だより」のある編集委員から、「長い間共同利用のお世話になったのだから、余り窮屈に考えないで（締切り日も含めて！）共同利用について卒直な感想、注文など書くように」言われ、締切り日に制約されないと引き受け、のんびり構えていたら、そうはいかんらしく、適当に催促される破目になった。一度書けば免疫もできうるので、思い切って筆をとることにした。私は共同利用の設置主旨や予算措置の経緯についての詳細は知らないので、定量的な意見を述べられる立場にはないが、「物性研だより」に掲載される施設利用の採択一覧表をみると、研究分野の多岐にわたって利用されていることに驚かされる。施設利用の採択者数の方も昭和50年代では一般、中性子、SORを含めて約200名となり、飽和状態に達している感じを受け、共同利用研究事業が定着した制度となっていることもうかがえる。しかし、応募する方の立場でみると、最近では採択にあたって厳しい査定を受け、実験回数や日数が計画の半分も認められた人は幸運と思ってよい状況となっている。又外来者に知らされない場合が多いが、実験経費の方も例え超伝導電磁石の運転に不可欠な液体ヘリウムの液化代も減額されるようになったらしく、有効な運転利用計画をたてる必要があるようになった。更に、旅費に関しても同様で、交通費と宿舎費の実費程度となり、10年前よりかなり窮屈な滞在となったのも事実である。これは研究経費や国鉄運賃の高騰が原因であって、国家予算編成でマイナスシーリングばやりの昨今、できる

だけ多くの人に利用できる機会を与えるようとする共同利用施設専門委員会としてはサービス業務の発展と経費の膨張とのジレンマに陥ることと思いますが、共同利用に要する諸経費の増額に一層の努力され、この制度が益々発展することを期待します。

施設利用する大部分の研究者は、自分の研究室で実現できない温度や磁場中での物性測定や高性能の測定装置を利用させていただいて、より完全な成果を挙げる努力をする訳である。共同利用を可能にする研究施設は全国の大学に幾つか誕生しているようですが、物性研のは総合的分野で公募しているので多面的に成果を挙げることができるのが特徴であり、研究の進展も速い。又、民主的に運営され、金は出すけど口は出さず自由に研究させてくれるだけに、研究条件の悪い外来者にとって、第一線級の研究雰囲気に浸ることができる上に、ちょっとなりうる六本木界隈の空気を味わえるのも魅力の一つであるかも知れない。しかし、共同利用研究事業に対して、外来者は等しく受益できる権利として、又物性研側はサービスをする義務があるとして運営されることを望んではいないだろうか？その答はこの制度を発足させた当初の主旨を正確に理解して出すべきであるが、共同利用に要する実験経費と旅費がじり貧の現状では其倒れになる可能性もある訳で、共同利用を加味した施設利用の姿があってもよいのではないか。超伝導電磁石を利用する場合のように、短期間で外来者の作業で大部分完了する研究は真に施設利用が妥当である。しかし、希釈冷凍機とか中性子回折施設を用いる研究のように特殊な装置であったり長い周期で運転される場合、傍で物珍らしげにただ見ている時間が多い施設利用は共同研究の性格が強いように思える。物性研の所員研究室を垣間見る機会も多い。立派な研究施設が多い割には実動研究員が少ない研究室もある。研究の屋台を支えてくれる大学院生の数がいろんな事情で少ないことも耳に入る。施設を利用する共同研究が可能なら、他大学の大学院生が2、3ヶ月滞在できる方法も編み出せるのではないか？現状のおんぶにだっここの施設利用が経費の面でも窮屈になると宝の持腐れになる心配もある。

物質開発室の発足と同時に共通測定室の見直しを検討中と聞いている。物性研での物質開発とは自前で物質を作成し、新しい物性を開発探索することであると理解すると、それは物性を測定して初めて認識できることであり、物質を評価するに必要な測定手段を緊急に整備する必要がある。物質を開発するには想像以上の時間を費やす必要があり、測定装置を開発したり整備したりする余裕はない筈である。施設利用として私は主に共通測定室磁気測定の超伝導電磁石を利用させていただいたが、担当の小黒勇技官の必死の努力にも拘らず、外来者が試料を持って行けば物性測定できる状態には程遠いと思う。私共の関連分野で施設利用する際に設置されていることが望ましい装置として、結晶構造解析と同定、電気抵抗、磁性（磁化、帯磁率、トルク）、比熱等があげられる。そして試料を持って行くだけで時代に即応した範囲（現在では～0.1 K, 15 T）で自動計測して物性が評価できることが望ましい。現状の共通測定室の人員配置ではそのような計測

器機の整備開発、維持管理を行うことは到底不可能であり、「魂入れて佛は作らず」とならないよう大英断で緊急に整備されることを期待します。

最後になりましたが、長年にわたってお世話いただいた関係所員、小黒勇技官及び共同利用掛の皆様に厚く感謝申し上げます。

お 詫 び

前号の巻頭（1頁～2頁）の佐藤正俊氏の文章に重大な印刷漏れが数ヶ所ありましたので、ここに訂正された全文を掲載させて頂きます。

著者に御迷惑をおかけしたこと深くお詫びいたします。

編集委員

石川征靖
斯波弘行

物性研を離れて思う事

分子科学研究所 佐藤正俊

物性研をはなれて最も変わった事は朝晩の通勤ラッシュから解放された事です。朝汗だくで物性研に着いてすでにひと仕事を終えたように感じる時は気をとり直すのに努力しました。ときには他人への迷惑もかえりみず電車の中で文献を読み耽りました。ラッシュとの闘いには大きなエネルギーの消耗を余儀なくされましたが今にして思えばそれが生活のリズムを決定する役割を持っていましたのかもしれません。いわゆる遠隔地通勤ともいえるような所から通っている方々はその疲労に打ち勝つほどの熱情をもって毎日働いておられ全く敬服する思いがしました。こうした研究生活の実態が物性研において長い間全く変わっていない唯一のものではないでしょうか。

最近の物性研における研究の環境や内容の変化は本当に大きいと思います。いわゆる「ピークを作れ」という合言葉のもとに極限物性追究のための装置の開発や導入が行われて物性研が他の研究機関を先導していくべく多大な努力が払われ、大変貌をとげてきたことは国内の物性研究者全体にとって、何はともあれ、大きなできごとのひとつです。又そこで働く人々に対しても研究の価値観の変化や各々がになう役割の変化等、少なからぬ影響をもたらし従来の種々の内規にもその目指している研究体制に合致するよう改正した方が良くなったものがあると考えられるほどです。この多大な努力が今後みごとに結実していくことをお祈りする次第です。

導入された大型装置の有効利用という点では、外部からも優れたアイディアがどんどん出てくるようなウォルテージの高まりが必要かと思いますが、最近内部で議論されている「新物質開発」研究への機運が確実に成長していく事が重要だと思います。種々異論はあるでしょうが、「物性研究における新しい対象を発見していくこと」は装置の開発とともに車の両輪を構成する重要なことになってきたように感じます。自分自身の研究の方向とも関連して、その面からの物性研の将来について特に興味深く見ていただきたいと思います。但し「新物質」というより「新対象」というぐらいに言葉に許容性をもたせてはいかがでしょうか。「新物質」という言葉はあまりにも大上段すぎてもう一つ別の研究所がいりそうですし、べつに新しく発見された物質に限らず、新しい概念をもたらしてくれる対象の発見こそが物性研究には重要なものだと思われるからです。その意味で物性研に要求されるのは合成そのものにウェイトをおいた研究（又は研究者）ではなく、あくまでも「興味ある物性をもつ対象」の追究を中心に据えた研究（又は研究者）と言って良いのではないでしょうか。そしてこの点に物性研究者の自己主張が前面に出るのは当然だと思います。

私の在任中に一度だけですが「新物質開発」についての討論会が行われました。それを傍聴した印象が強く残っています。それは今後長くこの仕事にたずさわっていこうとする比較的若い人

々の希望と今まで十分研究を成し遂げてきた人々の意見とのくいちがいでした（もっとも必ずしも議論はかみあっていない面がありました）。前者のグループに属する人々は試料作成に要する基本的設備や基礎物性量決定のための能率的装置の欠如について憂慮しており、直ちに整備すべきものと訴えかけておられました。私などもこれと同じ意見を持っていたひとりです。「新対象」の発見が「犬も歩けば棒にあたる」という図式ではとらえられないのは当然ですが、物理的洞察力に加えて、それをうらづけるための基本的実験の能率的つみ重ねは必須の事と思うからです。ある物質のよく研究された多彩な性質を再編成しなおし新しい概念に高める事や、物質の特徴をみごとに応用して技術の提案に結びつける仕事、あるいは名人芸的な実験技術を用いて物質の新しい側面を明らかにすること等は、従来からひいでた物理屋が好み且つ得意とするところですが、多くの物質の基礎的物理量を能率的にしらべ、数少ない新物質・新対象を抽出していくこととの比重は今後益々増大していくように思えてなりません。こういう土壤の育成だけで、大型装置の完全有効利用体制ができるわけでもないでしょうが、それが必須要件ではあるように思います。「新物質開発」に関する討論会は再び開催される約束で閉会になったとおぼえていますが、その後、一度も開かれなかったのは種々の理由があるとしても残念なことです。

物性研究に限って言えば、今日では物性研のようなある特定の研究所のみが、あらゆる分野を網羅して主導性を發揮するわけにはまいりません。全国的に見て尊敬すべき先生方は数多くおられます。そういう中に埋没していくような広範にレベルアップされた状況を作ることこそ設立当初の物性研の理念であったかもしれませんからこれはむしろよろこばしいこととも言えましょう。しかしそれでもなお物性研が主導的立場に立っていくための最も有利な点は、幅広くしかもはずれのない理論家のサポートがあることと情報の豊かさであると思います。たしかに研究会の頻度や多彩にかけて物性研は他に例を見ないほど有利でした。私などは、傍聴の取捨選択がむずかしかったほどです。又さまざまな実験について構想の段階であれ、結果の解釈の段階であれ適切なアドバイスをしてくれる理論家が必ずといっていいほどいました。問題はこういう理論家の存在に実験家全員が気づくかどうかにあると思います。理論家不要のような状況を自ら作ってしまうと損をすると感じました。逆に理論家の（悪意のない、しかしわざわざの）さげすみに耐えながら、種々の有用な指摘をもらさず正しく受けとめることができたらと自分はつとめたつもりでいます。もっともこういう親切な理論家達の迷惑をかえりみずときには無益な議論につきあわせてきましたことをざんげしなければいけませんし、この場を借りてあらためて感謝申し上げる次第です。

物性研をはなれた今、物性研の発展を願い、且つ新しい場所で精一杯働いていくことが、お世話になった皆様への恩返しであろうかと考えております。

物性研究所談話会

日 時 1985年8月26日(月) 16時～17時
場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室
講 師 Professor H.E. Hall
(所属) (University of Manchester)
題 目 Angular Momentum of Superfluid ^3He
要 旨 :

The Cooper pairs in superfluid ^3He are formed in states in which the orbital angular momentum and spin angular momentum are both one. This has the consequence that rotations in orbit space and in spin space alter the phase of the various components of the order parameter. The possible experimental consequences of this fact for the orbital angular momentum of the A-phase will be discussed.

日 時 1985年9月18日(水) 4時～5時
場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室
講 師 Prof. P. Monceau
(所属) (Centre de Recherches sur les Très Basses Températures,
C.N.R.S., BP 166X, 38042 Grenoble-Cédex, France)
題 目 Charge Density Wave Transport in
One-Dimensional Conductors
要 旨 :

As intensively studied in the last decade, many one-dimensional compounds are known to be unstable at low temperature and to undergo structural phase transitions or Peierls transitions. A charge density wave current-carrying state as proposed by Fröhlich in 1954 has been demonstrated in transition metal trichalcogenides NbSe_3 and TaS_3 and in a new family of chain-like compounds $(\text{TaSe}_4)_2\text{I}$, $(\text{NbSe}_4)_2\text{I}$ and $(\text{NbSe}_4)_{10}\text{I}_3$. Properties of the dynamics of the charge density waves in such compounds will be reviewed: threshold field, time dependent voltage signal, broad band noise, incommensurate-commensurate transition, metastability,...

日 時 1985年9月30日（月）4時～5時

場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室

講 師 高田康民氏

(所属) (東大物性研)

題 目 金属表面と希ガス原子の相互作用

要 旨：

ここ数年、固体表面、とりわけ電子密度の表面での分布を測定する新しい方法として、低エネルギー He 原子線の回折実験が注目されはじめている。ところで、その実験結果の解析には、固体表面と He 原子の相互作用を知る必要がある。従来、それに対しては、Nørskov らによる "Effective-Medium Theory" が用いられて来たが、実験結果の説明には、定量的に問題がある事が、指摘されている。ここでは、その相互作用を、S一行列理論を用いて再構成し、"Effective-Medium Theory" の妥当性と限界を論じ、併せて、我々の理論を、Cu 表面での He 原子線の回折に適用した結果を、お話ししたい。

日 時 1985年9月30日（月）4時～5時

場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室

講 師 Professor B. Monemar

(所属) (University of Linköping, Sweden)

題 目 Electronic Properties of Complex Defects

in Compound Semiconductors

要 旨：

An important class of defects in semiconductors consists of pairs of impurities and/or intrinsic point defects, or even higher order aggregates. Some of these are charged, i.e. they are donors or acceptors, others are neutral ("isoelectronic") defects. In general the knowledge about such defects is still rudimentary, particularly since their identification appears to be a difficult problem. Recent advances in our understanding of the electronic structure of such defects will be discussed, with particular emphasis on neutral ("isoelectronic") complexes. Experimental results will be given from tunable dye laser spectroscopy, optical transmission, magnetooptical Zeeman data and ODMR. The emphasis will be on defects in several compound semiconductors, such as GaP, GaAs, CdTe and ZnTe. The variations in electronic structure of multiparticle excitations (bound excitons) for complex defects will be discussed,

in relation to defect geometry and material parameters.

日 時 1985年10月14日（月）4時～4時30分

場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室

講 師 竹 内 伸 氏

(所属) (物性研 凝縮系物性部門)

題 目 5回対称軸をもつ合金 一準結晶—

要旨：

昨年、イスラエルのShechtmanらは急冷したAl-14at.%Mn合金で正確に10回対称性を示す電子線回折パターンを観測し、その構造が正20面体の対称性を有することを明らかにした。結晶では存在しないこの種の規則構造をLevineとSteinhardtは準結晶（quasicrystal）という概念で記述した。本速報では、我々の作成したAl₄Mn準結晶に関して得られた構造および種々の物性についての実験結果を概観する。

日 時 1985年10月14日（月）4時30分～5時

場 所 物性研究所 旧棟1階 講義室

講 師 新 上 和 正 氏

(所属) (物性研 理論部門)

題 目 2次元準結晶とその物理的性質

要 旨：

以前より粒子がとりうる配置（構造）の問題をテーマにしてきた。この研究過程で発見した2次元三角格子上に構成した粒子構造は興味ある性質をもつことがわかった。(1) 我々の粒子構造は並進対称性をもたないにもかかわらず、方位対称性をもつ準結晶である。また N^α (N :粒子数; α :定数) に比例する異なる粒子配置の状態数をもつ新しい相である。(2) この粒子構造の物理的性質、つまり、Schrödinger方程式（電子）または、格子振動の性質、また、フラクタル次元、電子・格子振動に対するスペクトル次元などの詳しい解析を報告する。

物性研ニュース

東京大学物性研究所客員部門教授・助教授の公募

本研究所客員部門において下記のとおり教授（併任）・助教授（併任）の公募をいたします。

1. 公募人員

研究分野 A：教授又は助教授 1名（または2名）

研究分野 B：助教授 1名

研究分野 C：助教授 1名

2. 期間

研究分野 A：昭和61年4月1日から昭和62年3月31日までの1年間（通年），（または，この期間を前半期と後半期に分けてそれぞれ1名）

研究分野 B：昭和61年4月1日から昭和61年9月30日までの前半期

研究分野 C：昭和61年10月1日から昭和62年3月31日までの後半期

3. 研究分野

A：極限物性部門超強磁場グループと協力して，メガガウス超強磁場下の物性研究を行う研究者

B：物性理論

C：極限物性部門極限レーザー グループと協力して非線形超高速光学現象及び固体中の緩和現象の研究を行う研究者

4. 研究条件

(1) 研究室の供用，その他可能な範囲で研究上の便宜をお計りします。

(2) 研究費及び本研究所との間の往復の旅費，滞在費は支給されます。

(3) なるべく多くの時間を本研究所における研究活動にあてていただることを希望します。

5. 公募締切

昭和61年1月8日（水）

6. 提出書類

(ア) 推薦の場合

○ 推 薦 書（本人の本研究所における研究計画に関する記述を含む）

○ 履 歴 書

○ 業績リスト（必ずタイプすること）ほか出来れば主要論文の別刷

(イ) 応募の場合

- 履歴書
- 業績リスト（必ずタイプすること）ほか主要論文の別刷
- 所属の長などによる本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 研究計画書（物性研究所滞在可能期間の推定を含む）

7. 宛先及び問合せ先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課 人事掛

電話 03(478)6811 内線 5004, 5022

8. 注意事項

客員の応募分野を明記し、教授又は助教授応募書類在中、或いは意見書在中の旨を表記し、
書留郵送で送付すること。

9. 選考方法

東京大学物性研究所人事選考協議会での審議に基づき、物性研究所教授会で決定します。

東京大学物性研究所長

豊沢 豊

東京大学物性研究所の助手公募の通知

下記により助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

(1) 研究室名及び公募人員数

凝縮系物性部門 家研究室 助手1名

(2) 内容

当研究室では、低温・強磁場といった環境のもとで、主として低次元伝導電子系の物性を調べて行くことを計画しているので、この方面的研究に積極的な関心を持つ方を望む。

ただし、この分野の研究経験の有無は問わない。

(3) 資格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力を持つ人。

(4) 任期

5年以内を原則とする。

(5) 公募締切

昭和60年1月10日（金）（必着）

(6) 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

(7) 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推 薦 書（健康に関する所見を含む）
- 履 歴 書（略歴で結構ですが、学位名・単位取得のみ・論文提出中等を明示のこと）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）、ほかに主な論文の別刷

(ロ) 応募の場合

- 履 歴 書（学位名・単位取得のみ・論文提出中等を明示のこと）
- 業績リスト（必ずタイプすること）、及び主な論文の別刷
- 所属の長又は指導教授等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

(8) 宛 先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課 人事掛

電話 03(478)6811 内線 5004, 5022

(9) 注意事項

凝縮系物性部門家研究室助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を表記し、書留で郵送のこと。

(10) 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

東京大学物性研究所長

豊 沢 豊

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異 動 事 項	現（旧）官職
60. 9. 30	栗 原 進	辞 職	（理論部門助手）
60. 10. 1	中 村 勝 吾	客員部門併任教授(60.10.1～61.3.31)	大阪大学産業科学研究所教授
60. 10. 9	原 田 武 美	辞 職	凝縮系物性部門技官
60. 11. 1	小 田 祺 景	大阪大学基礎工学部助教授に昇任	極限物性部門超低温物性助手

軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿

(任期:59. 1. 1 ~ 60. 12. 31))

役名	氏名	所属	備考
委員長	石井武比古	物性研 教授	59.4.1付 委員長
委員	菅野 暁	" "	
"	村田好正	" "	
"	菅滋正	" 助教授	
"	宮原義一	" "	
"	加藤貞幸	東大(核研)助教授	再任
"	伊達宗行	阪大(理)教 授	再任
"	糟谷忠雄	東北大(理) "	
"	真隅泰三	東大(養) "	再任
"	佐川敬	東北大(理) "	60.1.1付
"	伊藤 隆	東大(養) "	再任
"	中村正年	筑波大(物理学) "	再任
"	山口重雄	都立大(理) "	再任

任期 2年

外来研究員等委員会委員名簿

委員会名及び担当	氏名	任期	備考
外来研究員等委員会			
委員長	矢島達夫	59.4.1 ~ 61.3.31	委員長任期 60.4.1 ~ 61.3.31
委員	寺倉清之	"	
"	安岡弘志	60.4.1 ~ 62.3.31	
"	石本英彦	"	
所外委員	小林俊一	59.4.1 ~ 61.3.31	東大(理)
"	白鳥紀一	"	阪大(理)
"	長岡洋介	60.4.1 ~ 62.3.31	名大(理)
"	藤田敏三	"	広大(理)

共同利用施設専門委員会委員名簿

所 属	職名	氏 名	任 期	推薦母体
上智大（理工）	教 授	佐 藤 弦	59. 4. 1 ~ 61. 3. 31	化 学 会
室蘭工大（工）	助教授	保 志 賢 介	"	物 小 委
東工大（理）	教 授	永 田 一 清	"	"
広島 大（理）	助教授	川 村 清	"	"
広島大（総合科学）	教 授	好 村 滋 洋	"	"
阪 大（理）	教 授	金 森 順次郎	"	"
阪 大（理）	講 師	白 鳥 紀 一	"	"
東 大（理）	教 授	小 林 俊 一	"	"
北 大（理）	助教授	塩 崎 洋 一	"	"
東 大（工）	教 授	国 府 田 隆 夫	"	所 員 会
名 大（工）	教 授	石 井 大 道	60. 4. 1 ~ 62. 3. 31	化 学 会
東工大（資源化学研）	教 授	大 西 孝 治	"	"
東北大（理）	教 授	糟 谷 忠 雄	"	物 小 委
学習院大（理）	教 授	川 路 紳 治	"	"
北 大（理）	教 授	三 本 木 孝	"	"
信 州 大（理）	助教授	永 井 寛 之	"	"
名 大（理）	教 授	長 岡 洋 介	"	"
広島大（理）	教 授	藤 田 敏 三	"	"
阪 大（基礎工）	教 授	山 田 安 定	"	"
高エネルギー研	助教授	安 藤 正 海	"	所 員 会
分 子 研	教 授	丸 山 有 成	"	"

物性研究所協議会委員名簿

(任期:59.9.1 ~ 61.8.31)

現職	氏名	推薦母体
阪大・理・教授	伊達宗行(再)	物小委
阪大・理・教授	金森順次郎(再)	"
学習院大・理・教授	川路紳治(再)	"
名大・理・教授	長岡洋介	"
東北大・理・教授	糟谷忠雄	"
東北大・理・教授	櫻井英樹	化学会
都立大・理・教授	佐野博敏	"
東大・理・教授	上村洸(再)	東大・理
東大・理・教授	二宮敏行(再)	"
東大・理・教授	黒田晴雄	"
東大・工・教授	田中昭二(再)	東大・工
京大・基研・教授	高山一	60.4.16付京大・基研
高エネルギー物理学研究所・教授	富家和雄	所員会
東大・物性研・教授	秋本俊一	所員会 所内委員
東大・物性研・教授	守谷亨	" "
東大・物性研・教授	星埜禎男	" "
東大・物性研・教授	菅野暁	" "
理学部長	有馬朗人	官職指定委員
工学部長	堀川清司	"
原子核研究所長	山口嘉夫	"
事務局長	宮野禮一	"

昭和60年度人事選考協議会委員名簿

(物小委推薦)

(任期:60.4.1 ~ 61.3.31)

所属	職名	氏名	備考
阪大(理)	教授	金森順次郎	再任
学習院大(理)	"	川路紳治	
阪大(理)	"	伊達宗行	再任
名大(理)	"	長岡洋介	"
東大(教養)	"	真隅泰三	"

昭和60年度後期 短期研究会一覧

No.	研 究 会 名	開催期日	参 加 予定人員	提 案 者
1	表面物性の現状と将来	10月25日 ↓ 10月26日 (2日間)	100名	○村田 好正(東大・物性研) 市ノ川竹男(早大・理工) 井野 正三(東大・理) 金森順次郎(阪大・理) 田丸 謙二(東理大・理) 八木 克道(東工大・理) 吉森 昭夫(阪大・基礎工)
2	固体の流動と微細構造の形成 —結晶から地球へ—	11月5日 ↓ 11月6日 (2日間)	40名	○唐戸俊一郎(東大・海洋研) 鳥海 光弘(東大・理) 竹内 伸(東大・物性研) 秋本 俊一(東大・物性研)
3	金属間化合物の磁性	12月19日 ↓ 12月21日 (3日間)	80名	○中村 陽二(京大・工) 望月 和子(阪大・基礎工) 志賀 正幸(京大・工) 守谷 亨(東大・物性研) 安岡 弘志(東大・物性研)

○印は提案代表者

昭和60年度後期 共同研究一覧

研 究 題 目	研 究 期 間	提 案 代 表 者
三元系グラファイト層間化合物の超伝導	自 昭和60年10月1日 至 昭和61年3月31日 (永野研究室)	分子科学研・教授 井 口 洋 夫

外 来 研 究 員 一 覧

(昭和60年度 後期)

客 員 研 究 員

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
1	分 子 研 教 授	武居 文彦	10/30 12/12~12/13 2/27~2/28	超伝導結晶の作成 —物性研物質開発将来 計画に関連して—	秋 本	

1 件 1 名

嘱 託 研 究 員

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
1	京 (理 教)大 授	端 恒夫	10/1~3/31	光励起状態の超高速コ ヒーレント緩和とエネ ルギー緩和の研究	松 岡	京大(理) D. C. 1 富田誠 の指導教官
2	山 口 (医 教)大 授	竹本 忠良	11/20	ピコ秒パルスレーザー ^{を用いた細胞励起蛍光 の研究}	黒 田	山口大(医)研 究生田邊一郎 の指導教官
3	阪 (基 教)大 工)授	吉森 昭夫	11/11~11/12	表面に特有な相転移の 研究	村 田	
4	阪 (教 理)大 授	金森順次郎	11/11~11/12	"	"	
5	東 (教 理)大 授	田丸 謙二	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	表面での反応性の磁場 効果の研究	"	
6	室 蘭 工 大 助 教 授	城谷 一民	3/18~3/29	高温高圧下における黒 リン—ヒ素合金の合成 と電子物性	秋 本	
7	東 北 大 (金 助) 研 教 授	八木 健彦	2/17~2/22	超高压高温X線回折	"	
8	岐 阜 工 大 (教 理)大 授	仁田 昌二	10/24~10/26 11/28~11/30 2/20~2/22	テトラヘドラル系アモ ルファス半導体の作製 と物性	森 垣	
9	慶 応 大 (理 教)工 授	米沢富美子	10/1~3/31 上記期間中 (月1回)	テトラヘドラル系アモ ルファス半導体の電子 状態	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
10	阪 (基 础 工) 教	望月 和子	12 / 5~12 / 7 2 / 24~2 / 26	NiAs 型化合物の磁性 と構造相転移	寺 倉	
11	東 (教 助) 教 大 (養) 授	浅野 攝郎	10 / 1~3 / 31 上記期間中 (月 2 回)	遷移金属化合物の電子 状態	"	
12	新 (教 助) 教 大 (養) 授	長谷川 彰	11 / 11~11 / 14	稀土類化合物の電子構 造の研究	"	
13	静 岡 大 (工業短大部) 助 教 授	星野 敏春	10 / 28~10 / 30 2 / 3~2 / 5	局在軌道の作成とその 非周期系電子状態への 応用	"	
14	北 (工) 講 大 師	毛利 哲夫	11 / 18~11 / 20 2 / 24~2 / 26	合金の平衡状態図の理 論	"	
15	大 阪 府 立 大 (総 合 科 学) 教 授	柳瀬 章	11 / 11~11 / 14 3 / 11~3 / 14	固体の電子状態計算の ためのプログラム開発	"	
16	高 工 ネ 研 教 授	山川 達也	10 / 29 2 / 26	スピニン偏極光電子分光 実験装置の設計	S O R (石井)	
17	高 工 ネ 研 教 授	木原 元央	10 / 29 2 / 26	"	"	
18	高 工 ネ 研 助 教 授	北村 英男	10 / 29 2 / 26	"	"	
19	群 馬 大 (教 助) 教 授	菅原 英直	10 / 7~10 / 8 2 / 25~2 / 26	"	"	
20	京 理 大 (助) 手	さき 匂坂 康男	10 / 19~10 / 20 2 / 25~2 / 26	"	"	
21	高 工 ネ 研 助 手	横谷 韶	10 / 11~10 / 12 12 / 20~12 / 21 2 / 14~2 / 15	新型リングのビームダ イナミックスの研究	"	
22	高 工 ネ 研 助 教 授	佐藤 繁	10 / 19 2 / 26	温度可変光電子分光実 験装置の開発	S O R (菅)	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
23	高 工 ネ 研 助 教 授	宮原 恒昱	10/29 2/26	温度可変光電子分光実験装置の開発	SOR (菅)	
24	高 工 ネ 研 助 手	加藤 博雄	10/19 2/26	"	"	
25	東 北 大) (助 教 授	近藤 泰洋	10/19~10/20 2/25~2/26	"	"	
26	無 機 材 研 研 究 員	藤森 淳	1/20~1/25 2/17~2/22	鉄酸化物の光電子分光	"	
27	韓国ソウル大 教 授	OH Se Jung	1/15~2/23	価数揺動および近藤効果を示すYb化合物の高分解能光電子分光	"	日本学術振興会二国間学術交流

計19件 27名

留 学 研 究 員

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
1	京 (理) 大 D. C. 2	富田 誠	10/1~3/31	光励起状態の超高速コヒーレント緩和とエネルギー緩和の研究	松 岡	指導教官 京大(理)教授 端 恒夫
2	山 口 大) (研 究 生	田邊 一郎	10/1~3/31	ピコ秒パレスレーザーを用いた細胞励起蛍光の研究	黒 田	指導教官 山口大(医)教授 竹本忠良

計2件 2名

施 設 利 用 (一般)

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
1	埼 玉 大) (助 教 授	山田 興治	10/1~3/31 上記期間中 (週3日)	磁性半導体EuSeに関する基礎研究	三 浦	
2	東 (生 助 教 授 大 研)	榎 裕之	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	超強磁場を用いた半導体超格子中の電子状態に関する研究	"	磁気測定 152
3	東 (生 助 大 研) 手	吉野 淳二	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	磁気測定 153

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
4	東(生 技)大 研)官	松末 俊夫	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	超強磁場を用いた半導 体超格子中の電子状態 に関する研究	三 浦	磁気測定 154
5	東(生 研) D. C. 2	平川 一彦	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	磁気測定 155
6	東(生 研) M. C. 1	土屋 昌弘	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	磁気測定 156
7	大阪市立大 (理) 講 師	小松 晃雄	11/6~11/9 12/11~12/14	超強磁場下でのBiI ₃ 結晶の種々の励起子に 於ける磁気光効果	"	
8	大阪市立大 (理) M. C. 1	小池 一良	11/6~11/9 12/11~12/14	"	"	
9	お茶の水大 (理) 教 授	伊藤 厚子	10/1~3/31 上記期間中 (3日間・15回)	ランダム磁性体混晶の 磁化測定	後 藤	磁気測定 165 中 性 子 1
10	お茶の水大 (人間文化) D. C. 3	鳥養 映子	10/1~3/31 上記期間中 (3日間・15回)	"	"	磁気測定 167
11	お茶の水大 (理) M. C. 2	有賀 浩子	10/1~3/31 上記期間中 (3日間・15回)	"	"	磁気測定 166
12	東 北 大 (金 助) 研 教 授	深道 和明	11/12~11/15	アモルファス合金の磁 性	"	
13	東 工 大 (助 助) 理 教 授	橋本 巍洲	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	RA ₂ 系 (R:希土類) 強磁場下における磁化 測定	"	磁気測定 169
14	東 工 大 (理) 学振奨励研究員	沼沢 健則	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	"	"	磁気測定 170
15	東 工 大 (D. C. 2)	若林 英彦	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	"	"	磁気測定 171
16	東 工 大 (院 総合理工学研) D. C. 1	松本 宏一	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	"	"	磁気測定 172

No.	所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係員	備 考
17	東工大 (大学院) 総合理工学研 M. C. 1	葛原 徹 <small>くず</small>	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	RAl ₂ 系 (R:希土類) 強磁場下における磁化 測定	後藤	磁気測定 173
18	東工大 (理) M. C. 1	栗原 敏也	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	"	"	磁気測定 174
19	東工大 (理) M. C. 1	李 瑞 <small>り</small> <small>ずい</small>	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	"	"	磁気測定 175
20	京助 (理教) 授	加藤 利三	2/4~2/8	NaNo ₂ における共鳴 二次光学過程	松岡	
21	京理大 (M. C. 2)	酒井 俊男	2/4~2/8	"	"	
22	京理大 (M. C. 1)	川浦 久雄	2/4~2/8	"	"	
23	東北 (電通研) 大教 授	潮田 資勝	12/2~12/5	飛行時間法による電子 エネルギー分解能改善 の検討	村田	
24	岡山理大 (教) 授	森本 哲雄	12/19~12/25	ZnO表面における水の 二次元凝縮	"	
25	岡山理大 (助) 手	黒田 泰重	12/19~12/25	"	"	
26	山梨大 (教助) 育教 授	川村 隆明	10/7~10/12 1/6~1/11	反射電子回折による結 晶表面構造の解析	"	
27	阪工大 (講) 師	岩見 基弘	1/20~1/26	極低温での半導体表面 への金属膜形成過程	"	
28	東理大 (D. C. 3)	岩田 康嗣	10/1~3/31 上記期間中 (月2回)	¹ H(¹⁵ N, α r) ¹² C共 鳴核反応による結晶表 面の水素定量	"	
29	東理大 (教) 理 授	津田 惟雄	10/1~3/31 上記期間中 (月2回)	団体表面における電子 交換の研究	"	竹内研 106

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
30	東 工 大 (理) M. C. 1	葛見 徹 かつ かず	10/1~3/31 上記期間中 (週5日)	団体表面における電子 交換の研究	村 田	
31	東 北 大 (工 教) 授	平野 賢一	12/5~12/14	Aℓ合金の時効析出の 研究	桜 井	
32	東 北 大 (工 M. C. 2)	佐藤 哲朗	12/5~12/14	"	"	
33	東 工 大 (教) 授	井形 直弘	10/1~3/31 上記期間中 (15日間)	Fe - Cr 合金の表面偏 析の研究	"	
34	東 工 大 (教) 授	兵藤 申一	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	Atom-probe による異 常拡散の研究	"	
35	東 工 大 (講) 師	河津 璃	10/1~3/31 上記期間中 (週3日)	団体表面の構造決定	"	
36	東 工 大 (助) 手	佐東 信司	10/1~3/31 上記期間中 (15日間)	Fe-Cr 合金の表面偏 析の研究	"	
37	東 京 工 大 (総合理工) 教	西川 治	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	Atom-probe による極 微細領域の定量分析	"	
38	京 (助) 理 大 教 授	西嶋 光昭	3/28~3/31	分子線回折による固体 表面構造の研究	"	
39	京 (助) 工 大 手	高田 潤	11/25~11/30	Atom-probe による Fe-Ti 合金窒化材の組 成分析	"	
40	京 (工) M. C. 2	宮村 弘	11/25~11/30	"	"	
41	大 阪 府 立 大 (総合科学部) 講 師	坂田 東洋	2/17~2/28	化合物半導体のアトム プローブによる研究	"	
42	長崎総合科学大 教 授	金 鉉佑	12/23~12/27	半導体と金属との接触 界面の研究	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
43	東 海 大 (理 助) 教 授	鈴木 恒則	10/1~3/31 上記期間中 (12日間)	アトム・プローブ FIM 及びFIMによる合金 中の析出粒子の構造解析	桜 井	
44	北海道教育大 (教 助) 教 授	高柳 滋	3/18~3/21	超低温におけるゼオラ イト及びAℓ pore 中 のHeの研究	小 川	
45	北 (助) 理 大 手	和田 信雄	11/18~11/23	超低温でのゼオライト 中吸着Heの研究	"	
46	東 (助) 理 大 教 授	西田 信彦	10/1~3/31 上記期間中 (週1回)	³ He- ⁴ He 稀薄溶液の超 流動	"	
47	横 浜 国 大 (工 教) 授	宮田 直憲	10/1~3/31 上記期間中 (5日)	二次元磁性体の磁気相 転移の研究	永 野	
48	横 浜 国 大 (工 技) 官	君嶋 義英	10/1~3/31 上記期間中 (5日)	"	"	
49	群 (助) 馬 (工) 大 教 授	佐々木義智	12/3~12/6	イオンインプレントし たシリコン表層の輸送 現象	"	
50	群 (助) 馬 (工) 大 手	伊藤 和男	12/3~12/6	"	"	
51	名 (教 助) 養 大 部 手	佐藤 憲昭	2/24~3/1	(La, Ce)B ₆ の極低温 における磁化率の測定	"	磁気測定 176
52	中 (理 教) 央 大 工 授	深井 有	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	金属水素化物の低温物 性	"	秋本研 62
53	東 (助) 理 大 手	岩佐 泉	10/1~3/31 上記期間中 (週3日)	超音波によるヘリウム の研究	生 嶋	
54	北 (助) 理 大 手	おおみ 巨海 玄道	10/25~10/31	CuFeS ₂ の圧力一温度 相図の決定	秋 本	
55	東 (助) 理 大 手	栗田 敬	11/1~1/31 上記期間中 (週3日)	高温高压下における珪 酸塩鉱物の物性の研究	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
56	金 沢 大 (理 助)	赤荻 正樹	10/7~10/12	珪酸塩・ゲルマン酸塩 高圧相の合成	秋 本	
57	愛 媛 大 (理 助)	大谷 栄治	2/3~2/9	ダイヤモンドアンビル を用いた超高压発生	"	
58	室 蘭 工 大 (工) M. C. 1	板倉 賢一	3/18~3/29	高温・高圧下における 黒リン—ヒ素合金の合 成と電子物性	"	
59	室 蘭 工 大 (工) M. C. 1	李 肇雨	3/18~3/29	"	"	
60	千 葉 大 (理) M. C. 1	玉井 宏	10/1~3/31 上記期間中 (週4日)	地球深部物質の合成と 重要鉱物相互間の固溶 関係の解明	"	
61	氣 象 大 教 授	寶來 帰一	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	高圧下に於ける岩石熱 伝導率の実験的研究	"	
62	中 央 大 (理) 工 教 授	深井 有	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	超高压力下における金 屬水素化物の合成	"	永野研 52
63	東 海 大 (札幌教養部) 助 教 授	四方 周輔	10/5~10/15 12/12~12/26	高温高圧下のCeCu ₆ と CeRu ₃ Si ₂ の電気抵抗	"	毛利研 77
64	東 北 大 (非 水) 教 研 授	簗野 昌弘	10/1~3/31 上記期間中 (10日間)	希土類金属フタロシア ニン錯体の高圧下の物 性と構造	毛 利	
65	東 北 大 (非 水) D. C. 2	小波 秀雄	11/11~11/16 1/20~1/25	"	"	
66	東 北 大 (金 助) 研 手	金子武次郎	11/5~11/9	反強磁性金属間化合物 の高圧力下のX線回折	"	安岡研 112
67	東 北 大 (理) D. C. 2	安井 祐之	11/5~11/9	"	"	
68	室 蘭 工 大 (工) 助 教 授	保志 賢介	10/24~10/31 1/20~1/25	Hf _{1-x} Ta _x Fe ₂ の磁性 と格子歪	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
69	阪 (基 助 礎 教 工) 授	藤井 保彦	11/4~11/10	単結晶用ダイヤモンドセルを用いた超高压下での相転移の研究	毛 利	
70	阪 (基 助 礎 工) 手	浜谷 望	11/22~11/30	"	"	
71	阪 (基 礎 M. C.) 2	大石 泰生	11/4~11/30	"	"	
72	阪 (基 助 礎 教 工) 授	小野寺昭史	12/2~12/7	高压下におけるNiAs格子の安定性の研究	"	
73	阪 (基 礎 M. C.) 2	美作 昌宏 <small>みまさか</small>	12/2~12/20	"	"	
74	阪 (基 礎 M. C.) 1	入江 康志	12/2~12/20	"	"	
75	北 (理 D. C.) 3	高橋 博樹	10/7~10/19	高压下におけるNiS ₂ のラマン散乱	"	
76	北 (理 M. C.) 2	市森 峰樹	10/7~10/19	高压下におけるⅢ—V族混晶のラマン分光	"	
77	東 海 大 (札幌教養部) 助 教 授	四方 周輔	11/14~11/26 12/12~12/26 2/13~2/24	低温高压下のCeRu ₃ Si ₂ とInMo ₆ (Se _{1-x} S _x) ₈ の電気抵抗	"	秋本研 63
78	自 治 医 科 大 教 授	青野 修	10/29~10/30 11/26~11/27 1/28~1/29	膜の諸性質の理論	伊 藤	
79	東 (工 教 大) 授	国府田隆夫	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	有機錯体結晶および高分子半導体のESR	森 垣	齐藤研 134
80	東 (工 講 大) 師	十倉 好紀	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	齐藤研 135
81	東 (工 助 大) 手	金子 良夫	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	齐藤研 136

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
82	東 大 (工) D. C. 1	岡本 博	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	有機錯体結晶および高分子半導体のESR	森 垣	斎藤研 137
83	横 浜 国 大 (工) 教 授	栗田 進	11/25~11/30	白金混合原子価錯体のESR	"	木下研 128 SOR 6
84	横 浜 国 大 (工) 講 師	田中 正俊	11/25~11/30	"	"	木下研 129 SOR 7
85	島 根 医 科 大 助 教 授	田口 功	11/25~11/30	"	"	
86	広 大 (工) 教 授	大坂 之雄	3/13~3/15	高速堆積 $a\text{-Si}$, $a\text{-Si}_{1-x}\text{N}_x$, $a\text{-Si}_{1-x}\text{C}_x$ 膜の構造と欠陥	"	
87	広 大 (工) D. C. 2	上田 将人	12/18~12/21	"	"	
88	広 大 (工) D. C. 2	茶谷原昭義	12/18~12/21	"	"	
89	広 大 (工) 助 教 授	松村 英樹	12/23~12/25	熱CVDアモルファス・シリコンの物性研究	"	
90	広 大 (工) M. C. 2	井原 久典	11/25~11/27	"	"	
91	岐 阜 大 (助) 工 教 授	嶋川 晃一	11/7~11/9	アモルファスシリコンの交流伝導	"	
92	岐 阜 大 (M. C. 2)	境田 正彦	11/28~11/30 12/19~12/21	テトラヘドラル系アモルファス半導体の作製と物性	"	
93	岐 阜 大 (M. C. 2)	村瀬 功	11/28~11/30 12/19~12/21	"	"	
94	岐 阜 大 (M. C. 1)	小島 伸昭	10/24~10/26 11/14~11/16 12/19~12/21 1/23~1/25	"	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
95	岐 阜 大 (工 C.) 1	高木 亮一	10/24~10/26 11/14~11/16 12/19~12/21 1/23~1/25	テトラヘドロル系アモルファス半導体の作製と物性	森 埠	
96	東 海 大 (教 授)	木村 豊	10/1~3/31 上記期間中 (週1回)	アモルファス半導体の電子構造と物性	"	
97	東 海 大 (講 師)	中下 俊夫	10/1~3/31 上記期間中 (5日間)	アモルファス・シリコン及び多成分系アモルファス半導体の欠陥の局在準位と密度	"	
98	埼 玉 工 大 (講 師)	林 良英	10/1~3/31 上記期間中 (週3日)	アモルファスシリコンにおけるギャップ状態の研究	"	
99	法 政 大 (助 手)	浜中 廣見	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	中性子照射 <i>a</i> -Si の欠陥に関する研究	"	
100	東 工 大 (理 C.) 1	青木 英雄	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	アモルファス半導体—金属系の超伝導	"	
101	都立工科短大 (電気電子工) 助 教 授	藤田 安彦	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	多結晶半導体の光物性	"	
102	長 崎 大 (教 养 部) 授	岩永 浩	3/27~3/30	電子線照射によるHgTe 結晶中の転位ループ	竹 内	
103	長 崎 大 (教 养 部) 手	富塚 明	12/24~12/26	電子線照射によるCuBr 結晶中の転位の研究	"	
104	東 工 大 (講 師)	前田 康二	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	SiC中の格子欠陥と力学物性	"	
105	北 理 大 (助 手)	村山 茂幸	12/16~12/19	異方的スピングラス(イジング型及びXY型)の磁気的性質	"	
106	東 理 大 (教 授)	津田 惟雄	10/1~3/31 上記期間中 (月2日)	転位芯での電子伝導	"	村田研 29
107	東 理 大 (M. C. 1)	岩本 浩次	10/1~3/31 上記期間中 (週5日)	"	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
108	青 学 大 工 (理 助) 手	塩谷 百合	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	置換型二元合金中の電子状態の理論計算	竹 内	
109	東 (生 M.) 大 研 C. 1	さい 蔡 文鐘	10/1~3/31 上記期間中 (月2日)	アルミニウム双結晶による結晶粒界の研究	"	
110	東 (金 助) 北 大 研 教 授	篠原 猛	2/17~2/22	L ₁ ₂ 型Ni ₃ Al _{1-x} MnxのNMR	安 岡	
111	東 (金 助) 北 大 研 手	高杉 隆幸	2/17~2/22	"	"	
112	東 (金 助) 北 大 研 手	金子武次郎	10/16~10/20	スピネル型化合物Co ₃ S ₄ 及びCoRh ₂ S ₄ のNMR	"	毛利研 66
113	東 北 学 院 大 (工 助 教) 授	鹿又 武	10/16~10/20	"	"	
114	埼 玉 大 (助 理 教) 授	元屋清一郎	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	核磁気共鳴法による金属磁性体の研究	"	中性子 9 " 22
115	埼 玉 大 (教 助 教) 授	津田 俊信	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	CoC ₆ •GICのNMR	"	
116	信 州 (助 理 教) 大 授	永井 寛之	12/16~12/20	金属間化合物R ₃ CoのNMR (R=希土類金属)	"	磁気測定 168
117	信 州 (M.) 理 大 C. 1	岡本 直之	12/16~12/20	希土類を含む金属間化合物のNMR	"	
118	京 (教 助 教) 養 大 部	後藤 喬雄	10/28~11/2	核磁気緩和による低次元磁性体の非線形励起の研究	"	
119	阪 (基 助) 基 础 大 工 手	那須 三郎	11/18~11/22	Fe-C合金のNMR	"	
120	阪 (基 助 M.) 基 础 大 工 C. 1	吉松 秀格	11/18~11/22	"	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
121	千葉理大 (助)手	伊藤 正行	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	磁気混晶系のNMR	安 岡	
122	千葉理大 (M.C.) 1	高根 淳	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	"	"	
123	長野工業高専 助 教 授	藤原 勝幸	12/16~12/20	金属水素化物 $R(Fe-Co)_3Hy$ ($R=Y, Gd$) の核磁気共鳴	"	
124	電 総 研 研 究 員	鈴木 義茂	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	機能性人工格子の研究	"	
125	学習院大 (理)助 教 授	高橋 利宏	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	$(TMTSF)_2PF_6$ の ^{77}Se -NMR	"	
126	学習院大 (理)助 手	真庭 豊	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	
127	茨城理大 (助)手	石田 武和	12/6~12/18	超イオン伝導体の結晶 作成	中 田	
128	横浜国大 (工)教 授	栗田 進	10/1~3/31 上記期間中 (月2日)	白金混合原子価錯体の ラマン散乱	光 学 测 定	森垣研83 SOR 6
129	横浜国大 (工)講 師	田中 正俊	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	森垣研84 SOR 7
130	徳島工大 (助)手	金崎 英二	3/10~3/20	凝縮系における分子集合体の分光学的研究	木 下	
131	上智大 (理)工 教 授	伴野 雄三	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	グラファイト層間化合物のラマン散乱	光 学 测 定	
132	上智大 (理)工 非常勤助手	田野倉淑子	10/1~3/31 上記期間中 (週2日)	"	"	
133	阪理大 (講)師	白鳥 紀一	1/23~1/25 2/20~2/22	マグネタイトのホール 効果	石 川	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
134	東(工教)大(授)	田府田隆夫	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	有機錯体結晶の合成と 結晶成長	斎 藤	森垣研 79
135	東(講)大(師)	十倉 好紀	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	森垣研 80
136	東(助)大(手)	金子 良夫	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	森垣研 81
137	東(工D.C.)大(1)	岡本 博	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	森垣研 82
138	室蘭(工M.C.)大(1)	見延 信夫	1/13~1/24	白金一ベンゾジオキシムの合成と物性	"	
139	東(助)北理大(手)	岡部 豊	12/5~12/7	量子系のモンテカルロシミュレーション	斯 波	
140	東(助)北理大(3)	菊地 誠	12/5~12/7	"	"	
141	東京家政大(助)教(授)	渡辺 不俊	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	固体表面の物性	"	
142	新潟(助)理大(授)	加賀 裕之	12/23~12/25	近藤効果と超伝導	福 山	
143	東(助)北工大(手)	海老沢不道	10/1~3/31 上記期間中 (1泊2日・1回)	電子局在の強い系の超伝導	"	
144	静岡(工業短大部)大(教)	浅田 寿生	3/10~3/12	局在軌道法による非周期系の電子状態の研究	寺 倉	
145	東(助)総合理工大(手)	神藤 欣一	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	L ₁₂ 型構造金属間化合物の強度	"	
146	新潟(教助)養教大(授)	片山 信一	11/25~11/28	化合物半導体超格子の光応答ダイナミックス	安 藤	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
147	筑 波 大 (物 質 工) 講 師	青木 秀夫	10/1~3/31 上記期間中 (3日間)	強磁場中2次元系の電子構造	安 藤	
148	北 理 大 (教) 授	沢口 悅郎	10/21~10/26	$h\text{-BaTiO}_3$ の比熱異常の検出	磁 気 測 定	
149	北 理 大 (助) 手	秋重 幸邦	10/21~10/26	"	"	
150	北 理 大 (D. C.) 2	小林 正和	10/21~10/26	"	"	
151	東 (生 教) 大 研) 授	井野 博満	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	鉄一稀土類系アモルファス合金の磁性	"	試料作成 190
152	東 (生 助 教) 大 研) 授	榎 裕之	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	$A\ell\text{GaAs}$, $A\ell\text{GaSb}$, InGaAs 系超格子におけるシュブニコフ振動と量子ホール効果(II)	"	三浦研 2
153	東 (生 助) 大 研) 手	吉野 淳二	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	三浦研 3
154	東 (生 技) 大 研) 官	松末 俊夫	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	三浦研 4
155	東 (生 D. C.) 2 大 研)	平川 一彦	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	三浦研 5
156	東 (生 D. C.) 1 大 研)	土屋 昌弘	10/1~3/31 上記期間中 (月3日)	"	"	三浦研 6
157	東 (生 技) 大 研) 官	西岡 政雄	10/1~3/31 上記期間中 (月1日)	強磁場内の $\text{GaAs}/A\ell\text{GaAs}$ 量子井戸の発光特性に関する研究	"	
158	筑 波 大 (物 質 工) 教 授	小松原武美	1/20~1/23 2/24~2/27 3/10~3/13	高濃度近藤効果の強磁場特性(III)	"	
159	筑 波 大 (物 質 工) 講 師	大貫 悠睦	1/20~1/23 2/24~2/27 3/10~3/13	"	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
160	筑 波 大 (理 工) M. C. 2	平井 俊行	1/20~1/23 2/24~2/27 3/10~3/13	高濃度近藤効果の強磁場特性(Ⅲ)	磁 気 測 定	
161	筑 波 大 (理 工) M. C. 1	西原 宗和	1/20~1/23 2/24~2/27 3/10~3/13	"	"	
162	筑 波 大 (理 工) M. C. 1	渋谷 和幸	10/14~10/18 11/8~11/29 12/16~12/19 1/20~1/23 2/24~2/29 3/10~3/13	"	"	
163	筑 波 大 (工) M. C. 1	伊奈 克芳	10/14~10/18 11/8~11/29 12/16~12/19 1/20~1/23 2/24~2/29 3/10~3/13	"	"	
164	筑 波 大 (物 理) 助 手	土井 秀之	11/19~11/21 2/18~2/20	磁場依存性の小さい低温用温度計の開発	"	
165	お 茶 の 水 大 (理) 教 授	伊藤 厚子	10/1~3/31 上記期間中 (12日間)	ランダム磁性体混晶の 磁化測定	"	後藤研 9 中性子 1
166	お 茶 の 水 大 (理) M. C. 2	有賀 浩子	10/1~3/31 上記期間中 (12日間)	"	"	後藤研 11
167	お 茶 の 水 大 (人 間 文 化) D. C. 3	鳥養 映子	10/1~3/31 上記期間中 (12日間)	"	"	後藤研 10
168	信 州 大 (理) 助 教 授	永井 寛之	1/27~1/30	金属間化合物 R_3Co の 帶磁率測定 (R = 希土類金屬)	"	安岡研 116
169	東 工 大 (助) 理 教 授	橋本 巍洲	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	RA ℓ_2 系 (R : 希土類) 強磁場下における磁化 測定	"	後藤研 13
170	東 工 大 (理) 学振奨励研究員	沼沢 健則	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	"	"	後藤研 14
171	東 工 大 (理) D. C. 2	若林 英彦	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	"	"	後藤研 15
172	東 工 大 (大 学 院) 総合理工学研 D. C. 1	松本 宏一	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	"	"	後藤研 16

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
173	東工大 (大学院) 総合理工学研 M. C. 1	葛原 徹 くずはら かずひろ	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	RAl ₂ 系(R:希土類) 強磁場下における磁化 測定	磁 気 測 定	後藤研 17
174	東工大 (理) M. C. 1	栗原 敏也 くりはら としや	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	"	"	後藤研 18
175	東工大 (理) M. C. 1	李 瑞 り まい	10/1~3/31 上記期間中 (21日間)	"	"	後藤研 19
176	名大 (教養部) 助 手	佐藤 憲昭 さとう けんあき	10/1~3/31 上記期間中 (6日間)	Ce化合物,合金の強磁 場下における物性	"	永野研 51
177	京大 (理) D. C. 3	茂木 巍 もみ たけし	10/1~3/31 上記期間中 (3泊4日・1回)	一次元反強磁性体 CsCoCl ₃ ・2H ₂ O の磁 過程	"	
178	東京都立大 (理) 助 手	汐崎 郁代 しおざき いくよ	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	グラファイト層間化合 物の電気伝導効果	"	
179	青山学院大 (理工) 教 授	秋光 純 あきみ じゅん	10/1~3/31 上記期間中 (週1回)	超伝導トンネル効果を 用いた電子スピニ偏極 度の測定	"	
180	岡山理大 (理) 助教 授	大谷 楓男 おおや かずお	10/21~10/25	トンネル構造を有する T ₂ V ₅ S ₈ 型化合物の磁 気的性質	"	電子顕微鏡 189
181	早大 (理工) D. C. 3	山崎 淳司 やまざき じゅんじ	10/1~3/31 上記期間中 (10日間)	ゼオライトの低温領域 における比熱変化	"	
182	東北理大 (助) 手	國井 曜 くにい ひかる	10/22~10/25	価数搖動物質CeN及び CePの磁性と伝導	"	
183	東北理大 (M. C. 2)	竹内恒一郎 たけうち こういちろう	10/22~10/25	"	"	
184	立教大 (理) 研 生	石井 実 いしい じつ	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	トリアミンを配位子と するコバルト(Ⅲ)錯体 の構造の研究	共通 X	
185	広大 (工) 助教 授	井村 健 いむら けん	2/12~2/15	低温におけるβ-Sn→ α-Sn転移反応の電子 顕微鏡による研究	電子 顕微鏡	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係所員	備 考
186	広 大 (工科) M. C. 2	福本 博文	12/11~12/14	低温における β -Sn \rightarrow α -Sn転移反応の電子顕微鏡による研究	電子顕微鏡	
187	広 大 (工科) M. C. 1	明連 広昭	1/22~1/25	"	"	
188	都立工科短大 助 手	今野 正樹	10/1~3/31 上記期間中 (8日間)	インバー薄膜の磁性	"	
189	岡山理大 (理教)助授	大谷 楓男	1/23~1/25	V ₃ Te ₄ の低温における電子顕微鏡観察	"	磁気測定 180
190	東(生教)大研 助 手	井野 博満	10/1~3/31 上記期間中 (月4日)	鉄一稀土類系合金試料の作製	試料作成室	磁気測定 151
191	東(生助教)大研 助 手	鈴木 敬愛	10/1~3/31 上記期間中 (月2日)	NiO 単結晶作成	"	
192	東(生助)大研 手	増田 正孝	10/1~3/31 上記期間中 (月1日)	液体急冷合金の照射損傷の研究	"	
193	東理大 (助)手	小池 茂年	10/1~3/31 上記期間中 (24日間)	遷移金属中の水素に関する研究のための試料調整	"	
194	信州理大 (教)授	勝木 渥	2/21~2/22	物性物理学史	外来委	物性研究資料室
195	日(理教)大工 授	西尾 成子	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	"
196	東京工学院 情報専門学校 非常勤講師	植松 英穂	10/1~3/31 上記期間中 (週1日)	"	"	"

計 120 件 196 名

施設利用(中性子)

No.	所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係所員	備 考
1	お茶の水大 (理教)授	伊藤 厚子	10/1~3/31 上記期間中 (4泊5日・2回)	絶縁性スピングラスの中性子散乱	中性子回折 (東海)	後藤研 9 磁気測定 165

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
2	大茶の水大 (理) 助 教 授	池田 宏信	10/1~3/31 上記期間中 (4泊5日・2回)	絶縁性スピングラスの 中性子散乱	中性子 回折 (東海)	中性子 16
3	新潟大 (教) 授	田巻 繁	10/1~3/31 上記期間中 (6泊7日・1回)	液体金属における電子 -イオン相関	"	
4	新潟大 (医療技術短大) 助 手	武田 信一	10/1~3/31 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"	
5	新潟大 (工) 官	原田 修治	10/1~3/31 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"	
6	広大 (総合科学) 教 授	岡本 哲彦	10/1~3/31 上記期間中 (3泊4日・1回)	Fe ₂ Pの常磁性散乱(Ⅱ)	"	
7	広大 (総合科学) 助 教 授	藤井 博信	12/9~12/20 2/10~2/21	"	"	
8	広大 (生物圏科学) D. C. 1	上床 美也	12/9~12/20	"	"	
9	埼玉大 (理) 助 教 授	元屋清一郎	12/9~12/20 2/10~2/21	"	"	安岡研 114 中性子 22
10	福井大 (教) 授	日片 守	10/1~3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	中性子偏極解析法による CsNiCl ₃ の磁気相 転移の研究	"	
11	京理大 (助) 手	網代 芳民	10/1~3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	"	"	
12	京理大 (M. C. 2)	辰巳 富彦	10/1~3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	"	"	
13	京理大 (M. C. 1)	中島 猛	10/1~3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	"	"	
14	京化研 (助教) 授	高野 幹夫	10/1~3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	CoO-NiO 多層膜の中 性子散乱	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係所員	備 考
15	京 大 (化 研) D. C. 3	寺嶋 孝仁	10/1~3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	CoO-NiO 多層膜の中性子散乱	中性子回折 (東海)	
16	お茶の水大 (理) 助 教 授	池田 宏信	10/1~3/31 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"	中性子 2
17	東 北 大 (選鉱製鍊研) 助 教 授	早稲田嘉夫	10/1~3/31 上記期間中 (6泊7日・1回)	Ge, Ga 等を含むランダム系物質の中性子回折	"	
18	東 北 大 (選鉱製鍊研) 助 手	松原英一郎	10/1~3/31 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"	
19	東 北 大 (選鉱製鍊研) M. C. 2	斎藤 武男	10/1~3/31 上記期間中 (6泊7日・1回)	"	"	
20	東 北 大 (選鉱製鍊研) M. C. 1	川添 健実	10/1~3/31 上記期間中 (2泊3日・1回)	"	"	
21	東 北 大 (選鉱製鍊研) M. C. 1	大空 靖昌	10/1~3/31 上記期間中 (2泊3日・1回)	"	"	
22	埼 玉 大 (理) 助 教 授	元屋清一郎	10/1~3/31 上記期間中 (11泊12日・1回)	Y(Mn-Al) ₂ の中性子散乱	"	安岡研 114 中性子 9

計 7 件 22名

施設利用(SOR)

No.	所 属	氏 名	研究期間	研究題目	関係所員	備 考
1	東 北 大 (理) 助 教 授	I-1 池沢 幹彦	2/23~3/9	層状金属Ag ₂ Fの反射率	SOR	60年度 客員所員
2	東 北 大 (理) 助 手	難波 孝夫	2/24~3/8	"	"	
3	東 北 大 (理) D. C. 1	山本 逸郎	2/24~3/8	"	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
4	東 北 大 (理) M. C. 1	浦島 泰人	2/24~3/8	層状金属Ag ₂ Fの反射率	S OR	
5	東 北 大 (理) M. C. 1	王 小薔	2/24~3/8	"	"	
6	横 浜 国 大 (工) 教 授	I-2 栗田 進	2/24~3/8	真空紫外領域におけるハロゲン架橋白金混合原子価化合物の電子状態の研究	"	森垣研 83 木下研 128
7	横 浜 国 大 (工) 講 師	田中 正俊	2/3~2/15	"	"	森垣研 84 木下研 129
8	横 浜 国 大 (工) M. C. 1	内海 淳	2/3~2/15	"	"	
9	東 北 大 (理) 教 授	II-1 糟谷 忠雄	3/14~3/18	価数揺動および近藤効果を示すYb化合物の高分解能光電子分光	"	
10	東 北 大 (理) 助 教 授	鈴木 孝	3/10~3/15	"	"	S OR 16
11	大 阪 府 立 大 (工) 教 授	II-2 塙 賢二郎	2/10~2/22	マグネシウムハライドの共鳴光電子放出および内殻励起子のDecay Processの研究	"	
12	大 阪 府 立 大 (工) 助 教 授	会田 修	2/10~2/22	"	"	
13	大 阪 府 立 大 (工) 講 師	市川 公一	2/10~2/22	"	"	
14	大 阪 府 立 大 (工) 助 手	鎌田 雅夫	2/12~2/22	"	"	
15	大 阪 府 立 大 (工) 助 手	奥沢 誠	2/12~2/22	"	"	
16	東 北 大 (理) 助 教 授	II-4 鈴木 孝	3/10~3/15	S ORによる高濃度近藤物質の系統的研究	"	S OR 10

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所 員	備 考
17	東 北 理 大) (助 手	高木 滋	3/17~3/22	S O Rによる高濃度近藤物質の系統的研究	S O R	
18	東 北 理 大) (D. C. 3	落合 明	3/14~3/18	"	"	
19	東 北 理 大) (D. C. 3	新妻 規夫	3/10~3/15	"	"	
20	東 北 理 大) (D. C. 3	北沢 英明	3/14~3/18	"	"	
21	東 北 理 大) (M. C. 2	小山田 明	3/17~3/22	"	"	
22	東 理 大) (教 授	III-1 井野 正三	2/1~3/31 上記期間中 (週4日)	極角依存性光電子回折 による半導体表面超格子構造の研究	"	
23	東 理 大) (助 手	大門 寛	2/1~3/31 上記期間中 (週4日)	"	"	
24	東 理 大) (D. C. 1	花田 貴	2/1~3/31 上記期間中 (週4日)	"	"	
25	東 理 大) (M. C. 2	永野真一郎	2/1~3/31 上記期間中 (週4日)	"	"	
26	東 理 大) (M. C. 1	福谷 克之	2/1~3/31 上記期間中 (週4日)	"	"	
27	東 工 大) (助 教 授	IV-1 神谷 武志	1/27~2/22	シンクロトロン軌道放射光リソグラフィーの 光学素子への適用	"	
28	東 工 大) (技 官	田中 稲実	1/27~2/22	"	"	
29	日本女子大 助 教 授	小館香椎子	1/27~2/22	"	"	

No.	所 属	氏 名	研究期間	研 究 題 目	関 係 所	備 考
30	東(教 大 養) 授	V-1 伊藤 隆	12/9~12/21 1/27~2/8	直結型生物試料照射シ ステムの立上げおよび 性能テスト	SOR	
31	立(教 理 大) 授	檜枝光太郎	12/9~12/21 1/27~2/8	"	"	
32	立(教 理 大) 師	天笠 準平	12/9~12/21 1/27~2/8	"	"	
33	筑(生 物 科 學) 講 師	小林 克己	1/24~1/25 2/7~2/8 2/21~2/22	"	"	
34	東(助 海 医 大) 手	前澤 博	12/9~12/21 1/27~2/8	"	"	
35	北(獸 助 医 教 大) 授	桑原 幹典	2/12~2/14	"	"	
36	大(教 育 学 部) 阪 教 助 教 授	稻垣 卓	2/6~2/8	"	"	
37	高(助 知 医 科 大) 教 授	谷口 武利	1/30~2/1	"	"	
38	立(教 理 D. C.) 大 1	前田 一郎	12/9~12/21 1/27~2/8	"	"	
39	立(教 理 M. C.) 大 1	鈴木 雅雄	12/9~12/21 1/27~2/8	"	"	
40	東(D. 海 医 D. C.) 大 1	古澤 佳也	12/9~12/21 1/27~2/8	"	"	

計 8 件 40 名

總計 157 件 288 名

Technical Report ISSP 新刊リスト

Ser. A.

- No. 1555 Phenomenological Landau Theory of Charge-Density-Wave Phase Transitions in Layered Compounds. by Hiroyuki Shiba and Kazuo Nakanishi.
- No. 1556 On the d-d Transfer in Transition-Metal Monoxides and Dihalides. by Eero Johannes Ojala and Kiyoyuki Terakura.
- No. 1557 Recombination Mechanisms in Amorphous Semiconductors Deduced from Resonance Measurements. by Kazuo Morigaki.
- No. 1558 Low Energy Excitations in Ag₃Si. by Kaoru Shibata and Sadao Hoshino.
- No. 1559 Unusual Carbon Scrambling in Ethene Homologation Reaction. by Katsumi Tanaka, Ken-ichi Tanaka, Harutoshi Takeo and Chi Matsumura.
- No. 1560 On the Possible Mechanisms for Temperature-Induced Ferromagnetism. by Tōru Moriya.
- No. 1561 An Atom-Probe Study of Semiconductor-Metal Interfaces. by Akiko Jimbo, Tomihiro Hashizume, Toyo Sakata and Toshio Sakurai.
- No. 1562 Microscopic Structures of Metastable Phases in Al-Ag Binary Alloys. by Toshio Sakurai, Akiko Jimbo, Tomihiro Hashizume, Akira Sakai, Kozo Osamura and Takao Nakamura.
- No. 1563 An Analysis of Field Evaporation Using Interatomic Potentials. by Akira Sakai and Toshio Sakurai.
- No. 1564 Perturbation Theory of the Photoluminescence Spectrum of Modulation-Doped Quantum Wells. by Gerrit E. W. Bauer and Tsuneya Ando.
- No. 1565 Universal Scaling Relation of Conductivities in Quantized Landau Levels. by Tsuneya Ando.
- No. 1566 Critical Localisation and Low-Temperature Transport in Two-Dimensional Landau Quantisation. by Hideo Aoki and Tsuneya Ando.
- No. 1567 Effects of Strong Spin Fluctuations on the Superconducting Transition Temperature in Weakly Localized Regime. by Hiromichi Ebisawa, Hidetoshi Fukuyama and Sadamichi Maekawa.

- No. 1568 Effect of ^4He on the Magnetic Susceptibility of ^3He Adsorbed on Sintered Silver Powder. by Yuichi Okuda and Akira J. Ikushima.
- No. 1569 The Effect of Mn-Mn Exchange Interaction on the High Field Magnetoresistance and Magnetization in n-type $\text{Hg}_{1-x-y}\text{Cd}_x\text{Mn}_y\text{Te}$. by Norihide Yamada, Shojiro Takeyama, Toshiro Sakakibara, Tsuneaki Goto and Noboru Miura.
- No. 1570 An Atom-Probe Analysis of Al-Li Alloys. by Tetsuo Abe, Kazuhiro Hono, Tomihiro Hashizume, Akiko Jimbo, G. M. Carinci, D. R. Hess, Tetsuro Satoh, Ken-ichi Hirano, Toshio Sakurai and H. W. Pickering.
- No. 1571 Sputtering of a FIM Specimen by Imaging Gases. by Shogo Nakamura, Tomihiro Hashizume and Toshio Sakurai.
- No. 1572 Depolarization Dynamics of Hot Luminescence in F Center—Time Resolved Spectrum under Pulse Excitation—. by Shinji Muramatsu, Masaki Aihara and Keiichiro Nasu.
- No. 1573 Picosecond Laser Induced Anomalous Crystallization in Amorphous Silicon. by Yoshihiko Kanemitsu, Ichiro Nakada and Hiroto Kuroda.
- No. 1574 Resonant Photoemission Studies of 3d Transition Metal Intercalates of TiS_2 . by Yoshifumi Ueda, Hiroshi Negishi, Mikio Koyano, Masasi Inoue, Kazuo Soda, Hirokazu Sakamoto and Shigemasa Suga.
- No. 1575 Magnetic and Electrical Properties of Icosahedral Quasicrystalline Al-Mn Alloys. by Kazuaki Fukamichi, Tsuyoshi Masumoto, Masahiro Oguchi, Akihisa Inoue, Tsuneaki Goto, Toshiro Sakakibara and Sakae Todo.
- No. 1576 Investigation of the Touschek Effect in VUV Electron Storage Ring. by Yoshikazu Miyahara and Hiroshi Nishimura.
- No. 1577 Calculation of the Pressure Distribution in an Electron Storage Ring and Comparison with Monitored Pressure and Beam Lifetime. by Yoshikazu Miyahara.
- No. 1578 A New Formula for the Lifetime of a Round Beam Caused by the Touschek Effect in an Electron Storage Ring. by Yoshikazu Miyahara.
- No. 1579 Domain Wall Picture of the Neutral-Ionic Transition in TTF-Chloranil. by Naoto Nagaosa.

No. 1580 Structure and Stability of Quasicrystalline Al - Mn Alloys. by Kaoru Kimura, Tatsuo Hashimoto, Kunio Suzuki, Katsuhisa Nagayama, Hiromitsu Ino and Shin Takeuchi.

No. 1581 Coherent Propagation Effect of Incoherent Light. by Norio Morita, Kenji Torizuka and Tatsuo Yajima.

昭和61年度前期共同利用の公募について

このことについて、下記のとおり公募しますので、貴機関の各研究者にこの旨周知くださるようお願いします。

記

1. 公募事項（別添要項参照）

- A 外来研究員（61年4月～61年9月実施分）
- B 短期研究会（61年4月～61年9月実施分）
- C 共同研究（61年4月～62年3月実施分）

2. 申請資格：国、公、私立大学及び国、公立研究機関の教官、研究者並びにこれに準ずる者。

3. 申請方法：(1) 一般の外来研究員については、外来研究員申請書を提出のこと。

(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、申請方法が異なるので47ページを参照のうえ、申請のこと。

4. 申請期限：昭和60年12月25日（水）厳守

5. 申し込み先：〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 共同利用掛

電話（03）478-6811 内線5031・5032

6. 審査：研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、教授会で決定する。

7. 採否の判定：昭和61年3月下旬

8. 研究報告：共同利用研究終了後に実施報告書（所定の様式による）を提出のこと。

9. 宿泊施設：(1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(3) 東海村日本原子力研究所の共同利用については、東京大学共同利用研究員宿舎が利用できる。

10. 学生教育研究災害傷害保険の加入：大学院学生は51年4月に創設された『学生教育研究災害傷害保険』に加入されるようご配慮願いたい。

外 来 研 究 員 に つ い て

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、下記の各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、原則として半年ごとに行っています。

なお、外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関してお判りにならないことがあれば共同利用掛（内線 5031
5032）までご連絡ください。

また、申請書用紙が必要な方は直接当掛までご請求ください。

記

1. 客員研究員

- (1) 所外研究者がやや長期にわたって、本所の施設を利用して研究を行う便宜を提供することを目的としております。
- (2) 資格としては、教授、助教授級の研究歴に相当する研究者を対象とします。
- (3) 申請については、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。
- (4) 研究期間は最低1ヶ月とし、6ヶ月を限度としていますが、延長が必要なときは、その都度申請して更新することができます。
- (5) 研究期間中は常時本所に滞在することを原則とします。
- (6) 居室の供用方については、本所はできるだけ努力します。

2. 嘱託研究員

- (1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。
- (2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。
- (3) 研究期間は6ヶ月を限度とします。

3. 留学研究員

- (1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。
- (2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。
- (3) 研究期間は6ヶ月を原則とし、研究は所員の指導のもとで行います。
- (4) 東京通勤圏外の機関に所属する者は、本所規程に従って、旅費及び滞在費等が支給されま

す。

- (5) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接共同利用掛までご請求ください。）

4. 施設利用

- (1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を短期間利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

- (2) 施設利用希望の方は、別紙（様式1）の申請書を提出してください。

5. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、57年7月21日から施行された「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、別紙（様式5）の「放射線作業従事承認書」を提出していただきます。

6. 実施報告書

留学研究員及び施設利用で来所の方には、研究終了後30日以内に別紙（様式4）による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

7. 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定のうえ、共同利用研究施設運営費から支出します。

8. そ の 他

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。

- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

- (3) 外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れて頂くことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) A part of this work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
b) This work was performed, using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

軌道放射物性研究施設の共同利用について

1.3 GeV電子シンクロトロン（E S）及び0.4 GeV電子ストーリジリング（SOR-RING）からのシンクロトロン放射を用いる共同利用実験の申し込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申し込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設あて申し込んでください。

記

1. 対象となる実験：E S 及び S O R — R I N G からのシンクロトロン放射を利用する実験。
2. 実験期間：昭和61年4月中旬から昭和61年9月末日までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。
3. 利用できる設備：
 - (1) E S — S O R ビームライン
自由ポート
 - (2) S O R — R I N G 第1ビームライン
1 M 縦分散瀬谷—波岡型直入射分光器
 - (3) S O R — R I N G 第2ビームライン
2 M 縦分散変形ローランド型斜入射分光器、角度分解・積分型光電子分光測定装置一式。
 - (4) S O R — R I N G 第3ビームライン
但し、1.5か月間。平面回折格子斜入射分光器、角度分解型光電子分光測定装置。
 - (5) S O R — R I N G 第5ビームライン
自由ポート

なお、詳細および準備研究的な実験については、申し込み前に当施設にご相談ください。

4. 申し込み要領

- (1) 希望するビームライン
- (2) 申請研究課題
- (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
- (4) 実験期間及び実施希望時期
- (5) 実験の目的・意義及び背景（1,000字以内でわかりやすく書いてください。）
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績（5編以内）
- (7) 実験の方法（800字以内、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は明示のうえ安全対策の方法を含むこと。）
- (8) 使用装置（持込み機器も含めて）
- (9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

前頁項目につき記入した申請書のコピー8部(A4サイズ用紙)を下記申し込み先あて送付してください。

5. 申込先：〒188 東京都田無市緑町3-2-1
東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設
電話(0424) 61-4131 内線328, 307
(「共同利用申込み」と表記のこと)

6. 申込期限：昭和60年12月10日(火)必着とします。

7. 審査：上記申し込みについて、物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い、改めて物性研外来研究員申請書及び放射線作業従事承認書を直接共同利用掛(〒106 東京都港区六本木7-22-1 東京大学物性研究所)に提出していただきます。

短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1~3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

記

1. 申請方法：代表者は、別紙申請書(様式2)を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採否決定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経費：共同利用施設専門委員会で査定のうえ、共同利用研究施設運営費から支出します。
5. 報告書：提案代表者は、物性研だよりに掲載するため、研究会終了後すみやかに報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

共同研究について

共同研究は、所外の研究者と所内の研究者が研究チームをつくって、物性研究所の施設を利用して研究を行うもので、研究期間は原則として1年とします。研究代表者は、関係者とよく協議のうえ、下記に従って申請してください。

研究の規模には大小があり得ますが、研究に要する旅費、消耗品などの経費は共同利用施設運営費の中でもかなわれますので、著しく大型のものは実行が困難であることをお含みください。

共同研究の実施期間は原則として1年とし、前期においてのみ募集しておりましたが、昭和50年度から後期（10月～翌年3月までの6ヶ月間）実施のものも予算の許す範囲で公募しております。

記

1. 申 請 方 法：別紙（様式3）申請書を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、研究内容及び諸経費について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採 否 決 定：研究課題の採否は、共同利用施設専門委員会で審議検討し、教授会で決定します。
4. 経 費：研究に要する旅費、その他の経費は共同利用施設専門委員会で査定のうえ、共同利用施設運営費から支出します。
5. 所要経費の支出：予算の支出は所員が代行してお世話しますが、諸施設の利用、設備の管理等については、責任者の指示に従ってください。
6. 研究報告書：提案代表者は、その年度の終りに報告書を提出し、また共同利用施設専門委員会でその研究成果について報告していただきます。
7. そ の 他：「共同研究」に関する論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所における共同研究による旨の文章を入れて頂くことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。
This work was supported in part by the Joint Research Project of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

共同利用施設専門委員会委員

佐藤 弦	上智大（理工）	大西 孝治	東工大 (資源化学研)
保志 賢介	室蘭工大（工）	糟谷 忠雄	東北大（理）
永田 一清	東工大（理）	川路 紳治	学習院大（理）
川村 清	広島大（理）	三本木 孝	北大（理）
好村 滋洋	広島大 (総合科学部)	永井 寛之	信州大（理）
金森 順次郎	阪大（理）	長岡 洋介	名大（理）
白鳥 紀一	阪大（理）	藤田 敏三	広島大（理）
小林 俊一	東大（理）	山田 安定	阪大（基礎工）
塩崎 洋一	北大（理）	安藤 正海	高エネルギー研
国府田 隆夫	東大（工）	丸山 有成	分子研
石井 大道	名大（工）	その他物性研所員	

様式 1.

外來研究員 施設利用申請書

No.

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏名

印

等級号俸

等級

号俸

等級号俸発令年月日(年 月 日)

申請者の連絡先 電話

内線

下記研究計画により外來研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目

研究目的

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。グループで研究される場合は代表者が記入のこと。

○放射線作業に従事することの有無。 有・無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名(部門 研究室)

他の研究室、共通実験室への施設利用を同時に申請していますか。 していない している
申請している場合の研究室、共通実験室名()

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、57年7月21日から施行された「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線作業従事承認書」を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者(日帰り)

月 日 ~	月 日	週 日
月 日 ~	月 日	週 日
月 日 ~	月 日	週 日

② 宿泊を必要とする申請者(研究所の宿泊施設を利用する場合)

月 日 ~	月 日(泊日)	月 日 ~	月 日(泊日)
月 日 ~	月 日(泊日)	月 日 ~	月 日(泊日)
月 日 ~	月 日(泊日)	月 日 ~	月 日(泊日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 東海村原研宿泊施設

③ 所外に宿泊をする申請者

月 日 ~	月 日(泊日)	月 日 ~	月 日(泊日)
月 日 ~	月 日(泊日)	月 日 ~	月 日(泊日)

※ 所外に宿泊の場合どこを利用されますか。

自宅 親元 親戚の家 旅館

④ この出張の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度： ①新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。（回）

略歴

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

第 号
昭和 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

㊞

様式 2.

短期研究会申請書

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者所属職名

氏 名

(印)

連絡先 電 話

内 線

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書（別添）は、400字以上600字までとし、提案理由及び研究会内容がよくわかるよう記載してください。特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日～月 日(日間)

開始時間 _____ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項（○で囲む）

予稿集 • 有 • 無 その他希望事項

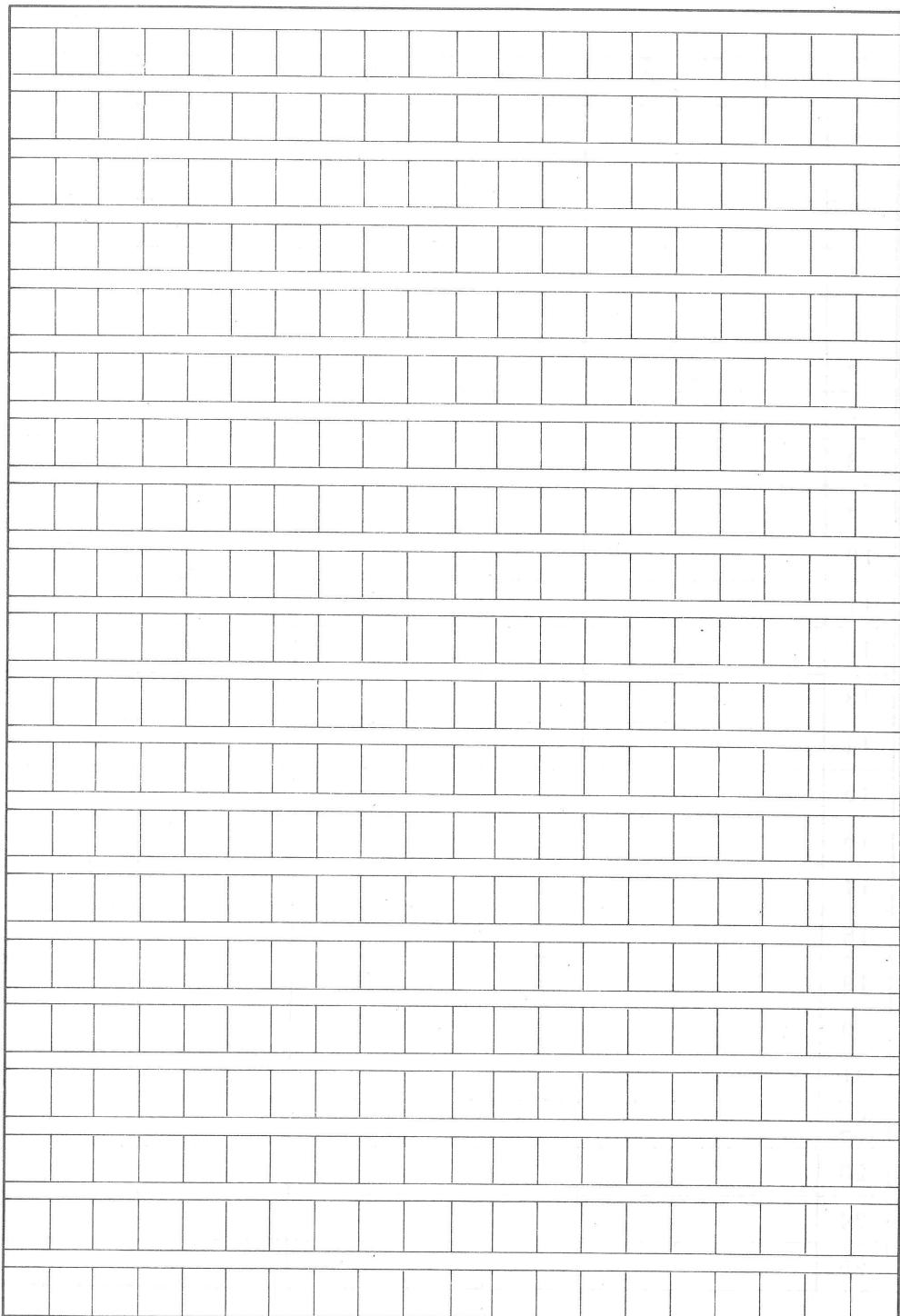
公開 • 非公開

6. その他の（代表者以外の提案者）

所属機関記入のこと

7. 提案理由

20 × 20



20 × 20

8. 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

9. その他主要参加者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

様式 3.

共同研究申請書

No.

昭和 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

代表者 所 属

職 名

氏 名

(印)

連絡先 電 話
内 線

下記のとおり共同研究を申請します。

研究題目

研究期間

自 昭和 年 月 日

至 昭和 年 月 日

共同研究とする理由

○放射線作業に従事することの有無。 有 無 (○で囲むこと)

経 費

品 名

規 格

員 数

金 額

研究の実施計画（使用装置方法等詳細に）

研究の実施計画（使用装置方法等詳細に）
（記入欄）

※ 放射線作業従事者については、氏名の横に○をつけること。

	氏 名	職 名	所 属	等級号俸	発 令 年 月 日
共同研究者	代表者			-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
				-	・・
性 研 来 所 予 定 日	都 外 の 場 合			都 内 の 場 合	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
①	所内に宿泊されますか	<input type="checkbox"/>			
②	所外に宿泊される場合どこを利用されますか	(該当するところに×を入れてください)			
	□ 自宅, 親元	<input type="checkbox"/>	□ 親戚	<input type="checkbox"/>	□ 旅館
③	この出張の際 物性研以外から鉄道賃 日当	宿泊料が支給されますか			
	□ される	<input type="checkbox"/>	□ されない		
	氏 名 月 日～月 日			1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
		月 日～月 日	月 日～月 日	1週日曜日(月)	
①	所内に宿泊されますか	<input type="checkbox"/>			
②	所外に宿泊される場合どこを利用されますか	(該当するところに×を入れてください)			
	□ 自宅, 親元	<input type="checkbox"/>	□ 親戚	<input type="checkbox"/>	□ 旅館
③	この出張の際 物性研以外から鉄道賃 日当	宿泊料が支給されますか			
	□ される	<input type="checkbox"/>	□ されない		

	氏名	都外の場合		都内の場合	
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
物性研 来所		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
予定日	① 所内に宿泊されますか <input type="checkbox"/>	② 所外に宿泊される場合どこを利用されますか (該当するところに×を入れてください) <input type="checkbox"/> 自宅、親元 <input type="checkbox"/> 親戚 <input type="checkbox"/> 旅館			
	③ この出張の際 物性研以外から鉄道賃 日当 宿泊料が支給されますか <input type="checkbox"/> される <input type="checkbox"/> されない				
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
① 所内に宿泊されますか <input type="checkbox"/>	② 所外に宿泊される場合どこを利用されますか (該当するところに×を入れてください) <input type="checkbox"/> 自宅、親元 <input type="checkbox"/> 親戚 <input type="checkbox"/> 旅館				
	③ この出張の際 物性研以外から鉄道賃 日当 宿泊料が支給されますか <input type="checkbox"/> される <input type="checkbox"/> されない				
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)
① 所内に宿泊されますか <input type="checkbox"/>	② 所外に宿泊される場合どこを利用されますか (該当するところに×を入れてください) <input type="checkbox"/> 自宅、親元 <input type="checkbox"/> 親戚 <input type="checkbox"/> 旅館				
	③ この出張の際 物性研以外から鉄道賃 日当 宿泊料が支給されますか <input type="checkbox"/> される <input type="checkbox"/> されない				
		月日～月日	月日～月日	1週日曜日(月)	1週日曜日(月)

様式 4.

昭和 年 月 日

外來研究員 施設利用 実施報告書
留学研究員

外來研究員等委員長 殿

所 属

職 名

氏 名

(印)

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間 自 昭和 年 月 日

至 昭和 年 月 日

③ 利用研究室または
共通実験室名 _____ 室

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

研究實施經過（利用機器，利用手段方法，成果，約 400 字）

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
(2) 利用研究終了後 30 日以内に提出すること。

物性研究所に来所する外来研究員等の放射線 管理について

本研究所における放射線障害予防規程は、さる昭和41年4月20日に制定されたが、所内における従来の規程の適用が必ずしも現状にそぐわなくなった実情にかんがみ、昭和57年3月24日に改正を行い、現在にいたっている。この規程の適用にあたり第27条に外来研究員等の安全管理については別に定めることと規定されているため、次のような外来研究員等の放射線管理内規を制定し、57年10月1日以降本研究所に来所する外来研究員に対し適用することとなった。なお、この内規の本旨は、本研究所の放射線施設を利用する外来研究員等に対し、その所属する機関において、その管理の責任を持つものとされ、これに関する了解事項及び放射線作業従事承認書もあわせて紹介する。さらにこの内規は、麻布地区に所在する本研究所施設のみに適用され、軌道放射物性研究施設はそれが所在する原子核研究所の、また、原研東海村に設けられてある中性子関係にあっては原子力研究所のそれぞれの関係規程の適用を従来どおり受けることになっている。

外来研究員等の放射線管理内規

放射線障害予防規程第27条に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

1. 麻布地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線作業従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱に先立って「放射線作業従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱の開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量を記録するものとする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）一中性子回折実験装置

中性子回折実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続をしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）—軌道放射物性研究施設。

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

附 則

この内規は、昭和57年7月21日から施行する。

物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱、管理区域等の放射線量率の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線作業従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。

放射線作業従事者としての認可及び個人管理とは、

- (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱に係る教育訓練は除く）の受講。
- (2) 血液検査などの健康管理。
- (3) 個人被曝線量測定。
- (4) 放射線作業に従事することの可否の判定。
4. 放射線作業に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認め放射線作業従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。
5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線作業に従事するものとする。

ただし、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

